



子供の遊戯の種類

小出末三

はしがき

遊戯と云へば、保育事業中最も重要視せらるゝものであつて、我が附屬幼稚園の時間割を見るも保育時間中四分の三を占めて居る處からして、遊戯の價値がいかにやうであるかと云ふことは、今更めて此處に喋てするの要はない、それで保育法の研究をなさんとするには、先づ遊戯法の研究が第一である、遊戯法の研究さへ出来れば、保育事業の大部分は成効したものと云つて宜しい、さきに本會が編纂せられた幼稚園遊戯なるものは、實に斯界の羅針盤であり、保姆諸姉の虎の巻となつて居るのであらふ、それに今蟻螂の斧と知りつゝ、筆を揮つて同好の諸姉に相見ゆるのである。古來諸學者が種々の見地よりして、遊戯の分類

を試みたものが多い、けれどもそれは暫く措き、此處には、幼稚園の鼻祖「フレーベル」氏の分類法に基いて述ぶることにしよう。

氏の説に隨へば、遊戯を分つて三種とするが、其第一種は曰く。

遊戯は現實の生活の模擬である。

兒童の生活状態は單純孤獨でない、よし單獨であつても、社會に出でては複雑である、其環境の影響こそ、生活状態の模擬として表はるゝものである、孟母が三度居を遷したる如きは、其環境が非教育的であつて、孟軻が此生活状態を模擬したからであらふ、兒童が模擬心に富んで居る一二の例を挙げれば、農家が野火を入れるを見て堤防に火を放ち、人家を焼くやうなことや、芝居の眞似をして、友達を火の中に入れてやうなことや、其他父が教接を撰閱するを見て、其不在中に秘藏の本に朱筆を加へたと云ふやうなことなどがあるが兒童の模擬心は、多くは新奇に向つて左右せらるゝものである、それで兒童の環境をして、教育的ならしむることが第一の急務である、然るに幼兒

は四六時中教育専門家の膝下にあるは僅々其六分の一ぐらゐで、残り六分の五は、家庭や社會の間に立つのである、世には全く完備せる家庭もあらんが、社會は必ずしも教育的でない、又如何に完備せる家庭と雖も、幼稚園に於ける保育の狀態とは、趣きを異にしてゐる場合が多くあらふ、是に於て幼稚園と家庭との連絡を計る爲に、年一二回母姉懇話會あるを見るが、直接保育の大任を負へる母姉と懇話するのであるから、必要は無論必要であるが、此處に大に研究の餘地を存すると思ふのは、附添人取扱ひ方である、何處の幼稚園でも、附添人扣所として一室を設けてあつて、附添人の多くは其一室に居して編物などに餘念なく、幼児の歸りを待つて居るのである、退屈の餘り偶々室外に出づるも、幼兒と遊ぶことが出来ないばかりでなく、處によつては附添人が運動場内に入るを禁した處もある、是等の事は附添人が保育上の妨害をなすとか、保育室が狭くて附添人を入れる、餘地がないとか、種々の點より止むを得ないこともあらふが、取扱ひ方如何によつては、保姆實習科

生とでも云ふやうな待遇も出來よ、然してなるべく幼兒に附き添はせ、室内に或は運動場に伴はしめたならば、保育の方針を知らしめ、其實際を観察せしめて家庭に於ける保育の連絡ともなり、折には大小便の世話も出來て保姆の手を省き、一舉兩得の方法である、家庭に於て母姉が與ふる感化は無論大であるけれども、子守や、附添人や、下婢等の及ばず影響亦大である、斯くて其環境をして教育的たらしむれば、幼兒が生活狀態を模擬して、此處に初めて保育の目的を達することが出来るのである

生活の模擬として表はるゝ遊戯の種類
 兒童の遊戯は實に社會の小模型である、而して日常生活は、生活狀態の模擬は

子守、角力、戦争ごっこ、
 學校遊び、兵隊遊び、電車ごっこ、
 汽車遊び、まゝごと、御興かつぎ等であつて、
 徒歩競走などがよく行はるゝやうである、此他生活狀態を模擬せしむるに足るもの種々あらんも、左に列記するものは保育事業に貢献する處大なり

と信す

荷運び、花壇の手入、綱引、車夫、

船乗り、賣買等

此他手技に關するやうであるけれども

架橋遊び、建築遊び等は、一致協同して事を

なすと云ふ點に於て効果あり

遊戯の實際

一 子守

幼兒は即ち子供である、彼等は自分を守りされ

たやうにして、自分より年少者を守りすることを

希望するものである、嬰兒の生るゝや、其の兄弟

は、自分の一身も處置するに困難しながら、或は

之を脊負んことを求め、或は之を膝に載せんことを

を望むのである、嬰兒の重さが耐へられないと自

覺しては、之に代用するゝ人形を以て満足するの

である、幼兒時代は嬰兒と人形も左程の區別がな

くて、同様の愛を濺いで待遇するのである、此の

遊びによつて、彼等は弟妹を愛すると云ふ一種の

情を養成することが出来る、以上は幼兒の自發活

動に過ぎないが、遊戯として誘導するには左の餘

地あるべし

第一年少者の組にありては、人形は破壊しない

ものを與へ日常は之を棚に飾り置き、保姆の手

によつて之を脊負ひ或は抱かしむ、其の汚かさ

いるを奨励し、よく守らせしめ、人形と談話の

練習をなす機會も多かるべし、

第二の組にありては、普通の粘土を以て作りた

るものを與へ、破損の虞あれば取扱ひ方にも注

意せしめて、物を丁重に取扱ふべきことを知ら

しめ、之を破損せず、之を汚さるるを賞揚す、

或は之に帽子をつつけさせ、外套をかけるぐらゐ

のことは出来る、之を脊負ふて奔走することも

出来るから負ひ事競争をなさしめてもよい

第三年長者の組にありては、保姆の手を離れて

人形の世話をさせるやうにして、進んでは友達

相互に子供となり、子守となりて遊ばしむるの

である、姉妹遊びなど云つて、手をとりにて奔走

することや、姉が妹の世話をし手をとりにて駆

け出すことや、出来るならば負ひ事も宜しから

ふ、此程度に進んでは、人形が變じて友達を代

用するのである
用具とする人形は、家庭に於ける玩具にて可なり、棚の都合にては交代に持参せしむるの方法をとりたいが、幼稚園に於ては標本となるべき人形を備へ置くべきことは勿論である

そまつにすなと、母上の

おはせたまひしこの人形

きものをきせて、をびしめて

箱のひでんにすわらせん。

きものはみどり、をびはわか

もやうはまつにしぼれうめ

なくなよなくな。をやすみの

ひにははなみにつれゆかん。

あばれるねすみ、じやれる猫

人形のいへをやぶるなよ

學校すみで、かへるまで

待てよ吾身を、をとなく。



ひい、垢切れ、霜焼、などで御困りの方は左の處法にてベルツ水をこしらへて日數つまけて局部を摩擦すると効力があります。

苛性加里液 四、(或は硼酸末二)

リスリン 二〇、

アルコール 二〇、

水 四〇、

